

教科	家庭科	学年	第2学年	担当者	星 琢磨
----	-----	----	------	-----	------

**【教科目標】**

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して生活と技術との関わりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

**【使用教科書・教材等】**

東京書籍『新編 新しい技術・家庭 家庭分野』  
ノート プリント

**【学習計画】**

学期	単元名	学習のねらい (身につけたい力)	準備物
1 学 期	衣生活と自立 ・着る目的を考えよう ・必要な衣服を洗濯しよう  ・衣服の手入れをしよう <b>【被服手入れ・補修実習】</b> ・よりよい衣生活を目指して	○衣服のはたらきを考える。 ○目的に応じた衣服の着用や個性を生かした衣服の着用を工夫する。 ○衣服の活用方法を工夫し、日常着の適切な選択方法を知る。  ○衣服の手入れや補修の必要性を理解し、素材に応じた方法を知る。 ○基本的な縫い方、布の扱い方を習得し生活に生かす。 ○衣服の収納方法を知り、再利用について考える。	教科書 プリント ノート ワーク 裁縫道具
2 学 期	生活を豊かにするために ・生活を豊かにするための工夫をしよう  <b>【被服製作実習】</b>  住生活と自立 ・住まいの役割とは何だろう ・家族と住まいのかかわりを考えよう ・安全に住むためにはどうしたらよいだろう ・健康で快適な室内空間を考えよう ・よりよい住生活を目指して	○衣服の基本的な構成を理解する。 ○製作の手順を知る。 ○それぞれの作業方法について知る。 ○材料や用具を準備する。 ○採寸をできる。 ○裁断・しるしつけができる。 ○ミシンで縫い上げができる。 ○住まいの基本的な機能について理解する。 ○気候風土や文化など、地域の特性による住まいの違いについて知る。 ○室内の環境条件を知り、改善方法を考える。 ○住まいでの事故防止や自然災害への対策を考える。 ○家族と住まいのかかわりについて関心を持ち、自分の生活行為と住空間の関係を考えることができる。	教科書 ノート プリント ワーク 裁縫道具
3 学 期	わたしたちの消費生活 ・消費者としての自覚を持とう ・商品選択と購入について考えよう ・消費者の権利と責任を知ろう ・よりよい消費生活を目指して	○販売方法も特徴を知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択・購入ができる。 ○自分や家族の生活のしかたや消費のあり方を見直し、消費者としての自覚をもつことができる。	教科書 ノート プリント

**【評価の観点と評価の方法】 (通知表のつけ方)**

評価の観点	生活や技術への 関心・意欲・態度25%	生活を工夫し創造する能力 25 %	生活の技能 25%	生活や技術についての知識・理解 25%
評価の観点の趣旨	授業への態度・意欲や提出物の内容等、よりよい高い目標を設定して努力しているかどうかをみる。	今の生活を振り返り課題を見つけ、その課題を解決しようと考えているか。よりよい方法を積極的に考えているか。	学習したことに基づき、適切に判断し実践しているかどうかをみる。	学習の内容を整理し、定着しているかどうかをみる。
評価の方法	授業の準備 発表、姿勢等、授業態度、提出物状況 など授業の様子 等	授業の様子 提出物 等	授業の準備 実習の様子 提出物 等	定期テスト 提出物 等

**【授業の受け方・学習のポイント】 (担当の先生からのアドバイス)**

教科書・ノート・準備物をしっかりと準備して授業に参加しましょう。  
話を静かに聞く、姿勢、集中して授業を受けましょう。  
ノートをしっかりと書きましょう。(黒板に書いてあること、人の発言や先生の説明をメモするなどノートの書き方を工夫する。)  
質問や考えたこと、疑問点を積極的に発表して授業内容の理解を深めましょう。  
プリントやレポート、作品の提出期限を守り、しっかりと提出しましょう。  
実習に根気よく、丁寧に望む。(基本的な技能を身につけて、工夫した作品が完成できるようにしましょう。)  
実習道具を正しく使い、安全に気をつけて協力し合い取り組みましょう。  
ワークや教科書を丁寧に扱い、なくさないようにしましょう。

**【家庭学習の進め方・学習のポイント】 (担当の先生からのアドバイス)**

実際に授業で学んだことを生かして、普段から家庭生活の中でお手伝い等をしながらか体験的に学習の理解を深めていきましょう。  
社会で起こる家庭や家族に関わる出来事について関心を持ち、それらについて自分の考えをまとめ、授業についてより理解を深め、よりよい生活ができる知識を身につけましょう。